

1 1	海部	津島市立神守小学校	ミヤザワ ミノリ 名前 宮 澤 み の り
分科会番号	1	分科会名	国語教育（文学その他）

研究題目

「主体的に国語に取り組み、対話を通して自分の考えを深めたり広げたりし、
友達と学び合う楽しさを感じられる児童の育成」
—「判断のしかけ」による学習課題の工夫—

研究要項

1 はじめに

本校は、国語を中心として、対話を通して自分の考えを深めたり広げたりしながら友達と学び合う楽しさを感じられる児童の育成を目指して研究を進めている。研究1年目は、サブテーマとして「国語が楽しい、好きと思える児童の育成」を掲げて研究を進めた。トーク語タイムでは、担任による読み聞かせや国語遊びを取り入れた。また、授業で使用するワークシートの工夫や、「話し合い・傾聴カード」を使用した対話活動の手立ての結果、アンケートから国語科に対して「好き」「やや好き」と回答した児童が増加したことや「好きではない」と回答した児童が減少したことが分かり、サブテーマに近づくことができた。

しかし、国語科の授業においては、自分の考えをもと文章を意欲的に読んだり書いたりする児童がまだ少ない。原因として、どの児童にも取り組みやすい学習課題が設定されていないことや、一問一答型の学習課題になっていて児童が意欲的に考える魅力ある学習となっていないことが考えられる。

そこで、研究2年目は、思考・判断を促す「判断のしかけ」として、一問多答型の学習課題を取り入れる。まず「個の読み」を促すことを目指す。その中で、児童一人一人が根拠のある自分の考えをもつことにより、友達との交流を経て、さらに考えを深めたり広げたりできるようにする。また、昨年度の研究に引き続き、トーク語タイムでの国語遊びを通して言語活動の充実を図る。これにより、話し合い（話すこと・聞くこと）・読むこと・書くことに対して、児童が前向きに取り組む態度を育成する。そして、「話し合い・傾聴カード」を活用することで、スムーズに対話活動を進めたり、誰もが司会進行できるようにしたりすることを目指す。また、友達の話をあいづちを打ちながら聞くなど、温かい雰囲気をつくることで対話活動が充実したものとなるようにする。以上のことから、主体的に国語に取り組み、対話を通して自分の考えを深めたり広げたりし、友達と学び合う楽しさを感じられる児童の育成を目指す。

2 研究の方法

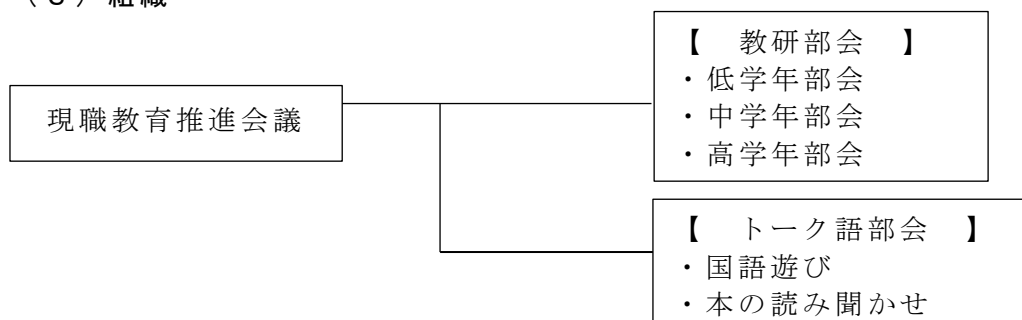
（1）研究の仮説

- ・ 一問多答型の「判断のしかけ」を取り入れた学習課題を設定することで、多様な考えが引き出され、友達の考えと比較しながら、自分の考えを深めることができるだろう。
- ・ トーク語タイムでの国語遊びを通して、普段の授業とは違った角度から言葉に触れることで、国語に対する楽しさを実感し、学習意欲を高めることができるだろう。
- ・ 「話し合い・傾聴カード」を用いた対話活動や、あいづちを打ちながら友達の話聞くことで、対話活動がはずみ、友達と学び合う楽しさを実感できるだろう。

（2）対象

全校児童

(3) 組織



(4) 手立て

① 「判断のしかけ」を取り入れた学習課題

- ア 新たな読みや個の読みを促す、一問多答型の学習課題を設定することで多様な考えを引き出し、友達と自分の考えを比較しながら考えを深められるようにする。
- イ ネームプレートを使用して、板書に児童一人一人の意見を明確にすることで、友達の考えと自分の考えを客観的に比較できるようにする。

② トーク語タイムでの国語遊び

- ア 国語遊びに焦点化することで、言語活動の充実を図り、話し合い（話すこと・聞くこと）・読むこと・書くことに対する前向きな気持ちを育む。
- イ 月2回の担任による本の読み聞かせを行い、読書推進を図る。

③ 「話し合い・傾聴カード」

- ア 対話活動を円滑に進めるために「話し合い・傾聴カード」を使用し、抵抗感なく対話活動ができるようにする。
- イ 「話し合い・傾聴カード」のあいづち例を掲示することで普段からあいづちを意識できるようにし、発表者が安心して発表できる温かい雰囲気をつくる。

3 研究の実際

(1) 2年生の実践

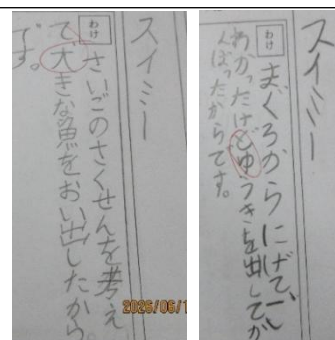
単元名 スイミー

ねらい 金メダルをあげたい登場人物を考えることを通して、場面の様子や登場人物の行動を捉えることができる。

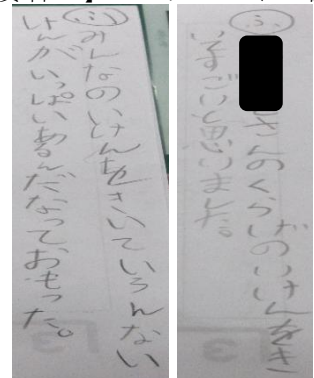
① 「判断のしかけ」を取り入れた学習課題(手立て①ア)

本時は、児童が教科書の内容と自分の気持ちや考えを関連付けて、主体的に考えることをねらいとした。そこで、「金メダルをあげたい登場人物を考えよう」という学習課題を設定し、選んだ登場人物と、選んだ理由についてワークシートに書かせた。

一問多答型の学習課題を設定することで、同じ登場人物を選んでも、多様な意見を引き出すことができた。ワークシートの実際の記述では、教科書本文を参考に理由を書く児童、本文と自分の言葉で書く児童など、さまざまな姿が見られた【資料1】。さらに、全体での意見交流後、学習課題について再考させた。その際、金メダルをあげたい人物を順に3つ挙げさせると、初めと考えが変わっている児童が複数見られた。変わった理由を発表させると、「〇〇さんの意見を聞いていいなと思ったから」と、友達と自分の意見を比較して考える姿が見られた。本時の振り返りにおいても「〇〇さんの意見を聞いて



【資料1】ワークシートの記述

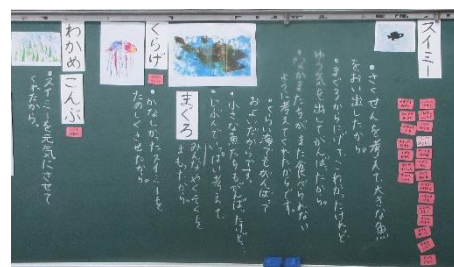


【資料2】本時の振り返り

て、すごいと思った」「いろいろな意見があるんだなと思った」などの記述が見られ、友達と自分の意見を比較することができた【資料2】。また、他の登場人物に目を向けさせることで、次時の「スイミーになりきって、他の登場人物を紹介しよう」という学習課題へつなげることができた。

② 「判断のしかけ」を取り入れた学習課題（手立て①イ）

自己省察の後、児童に意思表示をさせるため、ネームプレートを使って板書に可視化させた【資料3】。可視化された意思表示をもとに、選んだ理由について全体で交流した。個の考えが可視化されたことで、「やっぱりスイミーだね」「どうしてくらげ？」というつぶやきが生まれ、友達と自分の考えを比較しながら聞くことを促すことができた。



【資料3】個の考えを可視化した板書

（2）3年生の実践

単元名 まいごのかぎ

ねらい 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像することができる。

① 「判断のしかけ」を取り入れた学習課題（手立て①ア、③イ）

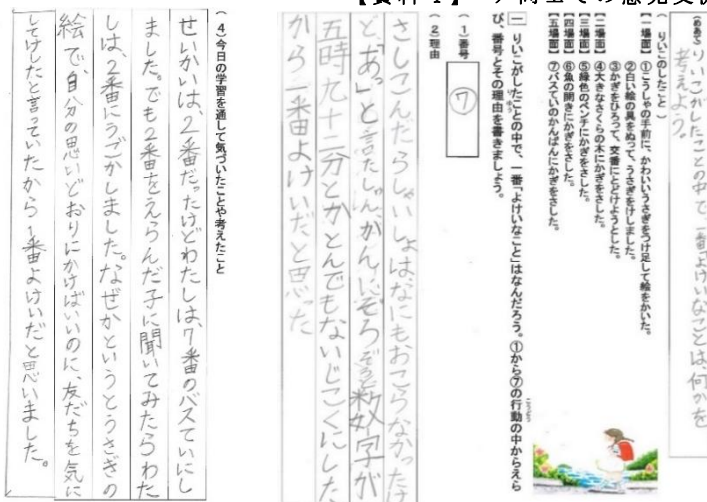
本時は、「りいこがしたことの中で、一番よけいなことは何かを考えよう」という一問多答型の学習課題を設定することで、登場人物の気持ちの変化について読み取らせることをねらいとした。

前時の授業で書いたワークシートでは、りいこがした7つの余計な行動のうち、「白い絵の具をぬって、うさぎをけしました」が一番だと考える児童が16名と最も多く、続いて「バスでいのかんばんにかぎをさした」を選ぶ児童が8名いた。その他には、公園の利用者や魚の開きを作った漁師などの立場になって理由を考えて、桜の木やベンチ、魚の開きのかぎあなにかぎをさしたこととする意見があった。

まずは、ペア同士で自分の選んだ行動番号と理由を発表し、意見を交流させた【資料4】。その際、傾聴カードのあいづち例を意識して、相手の意見を聞くように促した。聞き手があいづちを打ちながら聞いてくれるので、話し手も安心して発表することができた。その後、選んだ行動番号ごとにクラス全体で理由を発表させたが、その時点で自分の意見が変わった児童はいなかった。そこで、「りいこがおこしたふしぎな出来事に対するりいこの気持ちが、大きく変わったのはどこでしょう」と補助発問をして、りいこの気持ちが前向きに変わったところに付箋を貼らせた。バス達の様子をP85の9行目「なんだか、とても楽しそう」という文章表現をきっかけに、桜の木達もみんな自由に好きなことができて楽しかったのだと、りいこが気付いたことを確認するように促した。また、その後の友達との対話を通して、板書にある友達の意見と重ね合わせることで、振り返りでの意見の変容につなげることができた【資料5】。



【資料4】ペア同士での意見交流の様子



【資料5】友達の意見を聞いて考えが変容した児童のワークシート

② 「判断のしかけ」を取り入れた学習課題（手立て）
①イ）

自分の選んだ行動番号をネームプレートを使って可視化することで、一人一人の意見を全体で共有したり、交流したりすることができた。また、自分の考えを見つめ直したり、振り返ったりする手段とすることができた。りいこの気持ちが変わったところを確認したことで、友達の意見を見直して、ネームプレートを貼り変える児童も見られた【資料6】。



【資料6】ネームプレートを貼り変える児童の様子

(3) 5年生の実践

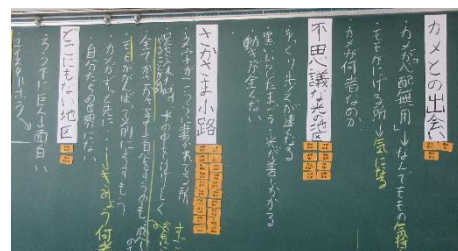
単元名 作家で広げるわたしたちの読書「モモ」

ねらい 物語のお気に入りの場面を伝え合ったり、物語の続きを想像したりすることを
通して、本に親しみ、自ら読書を楽しもうとする態度を育てる。

① 「判断のしかけ」による学習課題（手立て①ア、イ）

本時は、児童が物語の内容からお気に入りの場面を考えて伝え合ったり、物語の続きを予想したりすることを通して、本に親しみ、読書に対する意欲を高めることをねらいとした。そこで、「自分にとってのお気に入りの場面はどこかな」「話の続きで気になるところはあるかな」と発問した。そして、お気に入りの場面や話の続きで気になるところについて、ワークシートに記述させた。

板書で4つの場面に整理し、一問多答型の学習課題を設定したことで、普段は自分の考えを書くことが苦手な児童もワークシートに意欲的に自分の考えを書くことができた【資料7】。個人で考えた後、児童の考えを可視化するために、ネームプレートで板書に意思表示をさせ、その結果を基に全体で意見交流を行った。考えが可視化されたことで、誰がどの場面をお気に入りとしているかが一目で分かり、児童らが友達と自分の意見を比較しながら、お気に入りの理由を交流することができた。



【資料 7】 4 つの場面に整理した板書

本時の振り返りでは、「いろんなことが知りたくなって、こんなの初めてだと思った」「疑問がたくさん出てきてもっと読みたくなった」と、自分の考えを深めようとする意欲が見られた。また、「いろんな意見が出て、自分が想像してないことまで出てきておもしろかった」「いろいろな子のお気に入りの場面が知れておもしろかった」と、友達と自分の考えを比較しながら考えを深めることができた。

② 「話し合い・傾聴カード」 (手立て③ア)

昨年度から授業の中で、「話し合い・傾聴カード」を用いて話し合いの練習をしたことで児童に話し合いの基本が身に付き、カードがなくてもスムーズに司会進行ができるようになった【資料8】。

話し合いの進め方(四)六年生用

★ 今のところ、)について話します。

順番に自分の考えを理由を添えて述べていきます。ご自分の)

○○さんからは、)順番に述べていただきます。

ほく、わたしは……だと思えます。

その理由は、……だからです。とうですか

なるほど、ああ。へえ。うんうん、分かりました。

そうなんだね。うについてなの？(質問)

それは……です。……が出たので、……

では、みんなが出した意見の中から、友達達の考えと似ているところをさがして、感想などを順番に書いていってください。○○さんからは、)順番に述べていただきます。

ほく、わたしは、○○さんと同じく、意見が)だと思っています。

まじした。

ほく、わたしは、○○さんの考えについて、……と思っています。

まとめる、このグループの考えは、……です。

★ これ、読んでみるね、おれ。



質問の枝カード (5・6年用)	名前
① オープン・クエスチョン 1 ーというど? 2 どんな感じ? 3 もう少し詳しく教えてください 4 例え? 5 具体的などんな感じ? 6 どんなイメージ? 7 エピソードを教えてください。 8 ほかには ありますか?	面きつ腕 1 あ〜なるほど! あ! 2 いいね! 3 うんうん! う〜ん 4 え〜! えっ!! 5 おおー! おつ!
③自己決定の例 1 どうしたい? 2 どうなったらいと思う 3 (選択肢のなかから) どれと思う?	

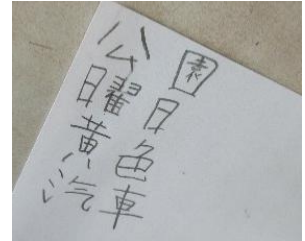
(4) トーク語タイム（手立て②アイ）

① 国語遊び

言語活動の充実を図り、話し合い（話すこと・聞くこと）・読むこと・書くことに対して前向きな気持ちを育むため、国語遊びに取り組んだ。2年生で取り組んだ「聖徳太子聞き取り漢字」では、聞き取った漢字を書くことで、漢字の定着を図ったり聴写の力を付けたりすることをねらいとした。複数の児童が別々の熟語を言い、聞いている児童には聞こえた熟語を正しい漢字で書くように指示した【資料9・10】。活動では、友達の声をよく聞こうと前向きに取り組んだり、進んで漢字を書こうとしたりする姿が見られた。また、学習した漢字を思い出しながら、楽しく熟語を身に付けることができた。



【資料9】熟語を伝える児童の姿



【資料10】聞き取った熟語

② 読み聞かせ・朝の読書タイム

読書推進のために、担任による「読み聞かせ」や「朝の読書タイム」に取り組んだ【資料11】。読み聞かせを行うことで、言語の発達や文脈から読み取る力の向上、さらには想像力や共感力、集中力の向上を図った。また、文章に対する抵抗感を減らし、物語などの文章に親しみがもてることを期待して取り組んだ。朝の読書タイムでは、週4日10分間取り組むことで、読解力や知識、論理的な思考力の向上を図った。読書により培った読解力が、国語の授業での文章を読み取る活動に生かされた。



【資料11】担任による読み聞かせ

4 研究の考察

(1) 手立て①について

一問多答型の学習課題を設定して選択肢を与えることによって、児童に安心感を抱かせることができた。その中で、児童達が意欲的に多様な考えを発表したり、書いたりする姿が見られた。また、同じ場面や登場人物を選択していても、教科書本文や自分の経験から、自分なりの考えを書くことができたため、友達と自分の意見を比較して聞き、自分の考えを深めることができた。

ネームプレートで児童の意見を可視化することで、単なる話し合いのツールから個の思考を支え変容を自覚させるツールとして活用することができた。

(2) 手立て②について

国語遊びに焦点化することで、学年に応じた話し合い（話すこと・聞くこと）・読むこと・書くことなどの言語活動を多く行うことができた。普段の授業で苦手と感じている児童も、短時間の焦点化された言語活動で、前向きに取り組もうとする気持ちを育むことができた。

また、月2回の担任による本の読み聞かせを行うことで、同じ本を図書室で借りたり、似た内容の本を探したりするなど、意欲的な活動が見られた。

(3) 手立て③について

昨年度から継続して、「話し合い・傾聴カード」を用いて、話し合いの練習を重ねることで、話し合いの基本が身に付き、カードがなくてもスムーズに話し合いができるようになった。

「話し合い・傾聴カード」のあいづち例を掲示し、普段の話し合い活動にて繰り返して練習する機会をつくることで、授業でも抵抗感なく友達の意見にあいづちを打って反応する児童の姿が見られた。

(4) アンケートからの考察（対象 全校児童）

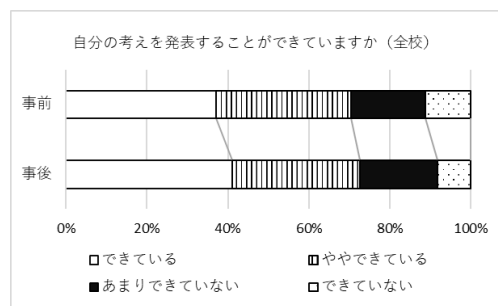
全校児童を対象に、「自分の考えを発表することができますか」というアンケートを行った。

アンケートの結果から、「できている」と回答した児童が増加したことや「あまりできていない」「できていない」と回答した児童が減少したことが分かった【資料 12】。また、「友達の考えを聞いて、自分の考えのよいところを見つけたり、深めたりすることができましたか」というアンケートでは、「できている」と回答した児童が増加したことや、「あまりできていない」「できていない」と回答した児童が減少したことが分かった【資料 13】。これらは、手立て①と③を習慣化し、授業への取り組みを統一してきたことによって、苦手意識がある児童が、判断のしかけを取り入れた学習課題について、対話を通して意欲的に取り組んだからであると考えられる。さらに、手立て②での「国語遊び」や「読書や読み聞かせ」を実施してきたことにより、国語の授業への意欲が高まったことも関係していると考察した。担任に本を読んでもらうことで、読書への親しみや関心をもつことができた。国語遊びでは、昨年度から継続して国語に関係するクイズや漢字書き順しりとりをしたことで、楽しみながら自然と語彙力を身に付けることができた。

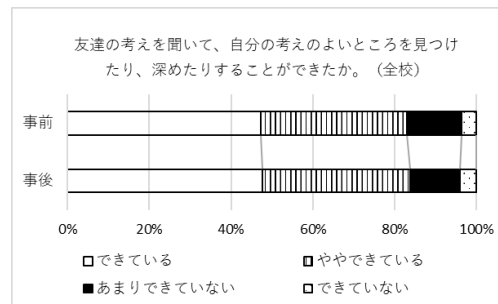
さらに、「学習課題に進んで取り組んでいますか」という質問をしたところ、「できている」「ややできている」と肯定的に回答した児童に大きな増減が見られなかった【資料 14】。国語の授業で自分の考えを発表したり、友達の意見から自分の考えを深めたりすることができたが、他方では、自分の考えがありながら、学習課題に進んで取り組めたという実感がもてるまでには至らなかった現実もある。児童が、達成した実感がもてるように一問多答型の言語活動を単元カリキュラム上の最上位の目標にどうやって効果的に結び付けていくかを明確にする必要があると感じた。また、国語遊びや「話し合い・傾聴カード」等の取組を継続するとともに、学習課題、発問の精選を行い、自分の考えを発信し、他者との対話によって、学習課題に進んで取り組めたという実感がもてる児童を育まなければならないと感じた。

5 成果と課題

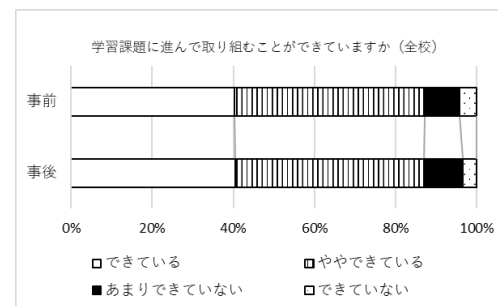
以上のことから、本研究のサブテーマである「判断のしかけによる学習課題の設定」に関しては、一定の成果が得られた。現職教育を通して、「どうしたら主体的・対話的で深い学びを実現できるのか」を全職員で考えた。昨年度から継続して、「話し合い・傾聴カード」や国語遊びに取り組み、今年度からは、「判断のしかけ」を取り入れた学習課題を設定したり、「あいづちあいいうえお」の掲示を全クラスで行ったりした。そして、本研究の「学習課題に進んで取り組めた実感」については、成果と課題が残った。今後も、国語遊びを通して、対話の基礎である「語彙力」「発信力」「読解力」を身に付けさせていきたい。また、単元における一問多答型の位置づけと目標との関連を明確にすることによって、どのように自分の学びの実感に生かすのかという点について研究を進めたい。



【資料 12】



【資料 13】



【資料 14】